■人づくりは国づくり■

前社長矢野彈に学んだこと

室舘（むろだて） 勲（いさお）
（株式会社 潮流社 代表取締役社長
株式会社キャリアコンサルティング 代表取締役社長）

２０２２年3月19日に前社長の矢野彈が旅立ち、今年で丸2年が経ちました。前日までスーツを着てネクタイを締めて仕事をしており、生涯現役を貫いた姿がとても印象に残っています。今頃は賀屋興宣先生や加瀬英明先生とともに天国でこれからの日本についてゆっくりお話しされていることと思います。

私と矢野彈の出会いは約22年前。キャリアコンサルティングを創業するよりも前になります。知人の紹介で参加した、毎月第二水曜日に開催されていた勉強会「二水会」の講師が矢野彈でした。参加者のほとんどが経営者で、本の輪読を通して様々な教えをいただく勉強会でしたが、その際に題材となっていた書籍がプレジデント社から発行されている『新装版 現代の帝王学』（著：伊藤肇）でした。その内容に私は心を鷲づかみにされ、22年経った今でも毎年のように読み返す大好きな本のひとつです。

伊藤肇氏は、「帝王学」とは「権力の学問」であり「エリートの人間学」であると述べています。安岡正篤氏の言葉を参考に「原理原則を教えてもらう師をもつこと」「直言してくれる側近をもつこと」「よき幕賓をもつこと」を帝王学の3つの柱としています。

「『権力の効用』を信じないものは政治家にも経営者にもなれない。人を組織し、党をつくり、会社を運営し、自ら、権力を握って、これを自他のために役立てる、これが政治であり経営である。だが、権力くらい人を堕落されるものはない。権力支配には名聞利達（みょうもんりたつ）が伴い、道徳的腐敗を生じやすいのだ。」『現代の帝王学』はこのような文章から始まります。当時まだ会社勤めの身でしたが、これから会社を経営しようと思っていた私にとっては大変興味深い内容でした。

具体的な事例として、新自由クラブ時代の河野洋平氏が述べた次のような言葉あります。

「国会議員になると、グリーン車のパスが頂けます。そのパスではじめてグ

リーン車に乗った時は『市民の人たちが高い代金を払っているグリーン車に、代議士だからといって無賃乗車していいだろうか』と、なるべく目立たぬ席で小さくなっていました。ところがどうでしょう。1年たつと、グリーン車にとびのって、空席がないと、腹が立ってくるんです。権力というものはこわいですねえ」

努力して人の上に立ったとしても、権力というものを勉強して正しく理解しないと身を滅ぼしかねないことがよくわかり、会社設立から現在に至るまで「成功に耐える」という言葉を造り肝に銘じています。

2月11日の建国記念の日に、キャリアコンサルティングが主催する『第16回くにまもり演説大会』が開催されました。第1回大会から伝え続けている大会趣旨が「世界の手本となる国、日本。その為には、良い文化は伝え、悪くなったところは直す。国の未来は若者の質で決まる。公を考え、やさしい若者をつくる。実力者が要職に就き、誠実に働けば、国はすぐに良くなる」です。実力のある人間が要職に就くということは、まさに権力を手に入れるということです。

昨今、権力を持つことの恐ろしさを理解しないまま要職に就いてしまった結果、人間関係や金銭のトラブルを起こす経営者や政治家が非常に多いように感じます。

「勝つことは容易だが、勝ち続けることは難しい」という言葉もあるように、リーダーを目指している若者は多くの本や先人の歴史を謙虚に学び、世の中の原理原則を理解していく必要があると思います。

矢野彈には20年以上師事しましたが、どんなときでも物事を公平公正に考え決して威張ることもなく、どんな立場の人に対しても常に真摯であり続けていた姿が記憶に残っています。『現代の帝王学』からも大変多くの学びを得ることができましたが、何より目の前で帝王学を体現するエリートの姿を見せていただいたことが最大の勉強になりました。

「地球を分母に考えなさい」という言葉もとても印象に残っています。矢野彈は、人間とはどうあるべきか、地球とはどうあるべきか、日本とはどうあるべきかという理想を、我々後輩たちに教えてくれました。地球を分母に考えることができれば、権力を間違った方向に使う人間にはならないと思います。何事にも真摯に、誠実に向き合ってきた矢野彈らしさが溢れている言葉です。これからの日本が抱える大きな課題のバトンを引き継いだ者として、これからも若者に矢野彈の想いを伝え続けていきたいと思います。カレントを通して、皆様が生きていくうえでのヒントにしていただければ幸いです。

カレント年間購読はコチラ⇩